

経営分析表【公共下水道事業】

区 分		秦野市 (30年度)	秦野市 (29年度)	全国平均 (29年度)	算 式
構成比率	(1) 固定資産構成比率 (%)	98.1	98.6	96.8	固定資産／(固定資産＋流動資産＋繰延資産) * 100 総資産における固定資産の割合。指数が高いほど資本は固定化の傾向にあるため、低いほど良い。
	(2) 固定負債構成比率 (%)	40.2	41.4	36.1	固定負債／負債・資本合計 * 100 総資本とこれを構成する他人資本の関係を示す。指数が低いほど経営の安全性が高いといえる。
	(3) 自己資本構成比率 (%)	56.2	55.1	59.0	(資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益)／負債・資本合計 * 100 総資本とこれを構成する自己資本の関係を示す。比率が高いほど経営の安全性は大きい。
財務比率	(4) 固定資産対長期資本比率 (%)	101.8	102.0	101.7	固定資産／(資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益) * 100 比率は100%以下が望ましい。超える場合は固定資産に過大投資といえる。
	(5) 固定比率 (%)	174.5	178.7	164.0	固定資産／(資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益) * 100 固定資産は自己資本から調達されるべきとする企業会計上の原則から100%以下が理想である。
	(6) 流動比率 (%)	53.4	42.1	66.4	流動資産／流動負債 * 100 短期債務に対応すべき流動資産が十分にあるかを示す。比率は高いことが望ましい。
	(7) 当座比率 (%)	51.8	37.5	57.5	(現金預金＋(未収金－貸倒引当金))／流動負債 * 100 短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化できる未収金が十分あるかを示す。比率は100%以上が望ましい。
収益率	(8) 営業収支比率 (%)	68.4	65.7	85.5	(営業収益－受託工事収益)／(営業費用－受託工事費用) * 100 営業費用に対する営業収益の割合で、指数は高いほど良い。
	(9) 経常収支比率 (%)	119.0	117.1	108.8	(営業収益＋営業外収益)／(営業費用＋営業外費用) * 100 経常費用に対する経常収益の割合で、指数は高いほど良い。
	(10) 総収支比率 (%)	119.0	117.0	112.9	総収益／総費用 * 100 総費用に対する総収益の割合で、指数は高いほど良い。
その他	(11) 料金収入に対する職員給与費 (%)	9.3	10.0	8.8	(職員給与費－受託工事費)／下水道使用料 * 100 下水道使用料に対する職員給与費の割合を示す。
	(12) 料金収入に対する企業債利息 (%)	29.0	31.7	24.2	企業債利息／下水道使用料 * 100 下水道使用料に対する企業債利息の割合を示す。
	(13) 料金収入に対する企業債元金 (%)	99.1	98.7	94.8	企業債元金／下水道使用料 * 100 下水道使用料に対する企業債元金の割合を示す。
	(14) 施設利用率 (%)	65.2	66.7		現在晴天時平均処理水量／現在晴天時処理能力 * 100 施設が一日に対応可能な処理能力に対応する一日平均処理水量であり、施設の利用状況や適正規模を判断する。
	(15) 晴天時最大稼働率 (%)	71.6	81.2		現在晴天時最大処理水量／現在晴天時処理能力 * 100 施設が一日に対応可能な処理能力に対応する一日最大処理水量であり、施設の利用状況や適正規模を判断する。
	(16) 水洗化率 (%)	90.1	89.7	96.6	現在水洗便所設置済人口／現在処理区域内人口 * 100 現在処理区域内人口に対する現在水洗便所設置済人口の割合を示す。

※全国平均は、「地方公営企業年鑑」(総務省ホームページ)の下水道事業法適用企業の数値。